令和7年度（2025年度）特別支援教育基本セミナー

【説明・演習・協議】
「背景要因に目を向けた適切な指導及び必要な支援の検討」

令和7年（2025年）4月26日（土） 10:00～11:50

北海道立特別支援教育センター
研究員（聴覚・言語障がい教育室長） 島 田 慎 平

内容

１　特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に対する指導や支援について（説明：30分）

２　氷山モデルで考える適切な指導や支援（説明：10分、演習：25分、協議30分）

３　特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒への指導事例（10分）

４　まとめ（５分）

ねらい

○　適切な指導や支援に向け、説明や演習を通して、障がいの社会モデルの考え方や氷山モデルを用いた支援の検討の仕方について理解する。

１　特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に対する指導や支援について

（1） 特別支援教育の理念

特別支援教育は、障害のある幼児児童生徒の

①や社会参加に向けた②な取組を支援する

という視点に立ち、

幼児児童生徒一人一人の③を把握し、

その④を高め、

生活や学習上の困難を改善又は克服するため、

適切な指導及び必要な支援を行うものである。

特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する

全ての学校において実施

特別支援教育の推進について（平成19年４月１日　文部科学省通知）

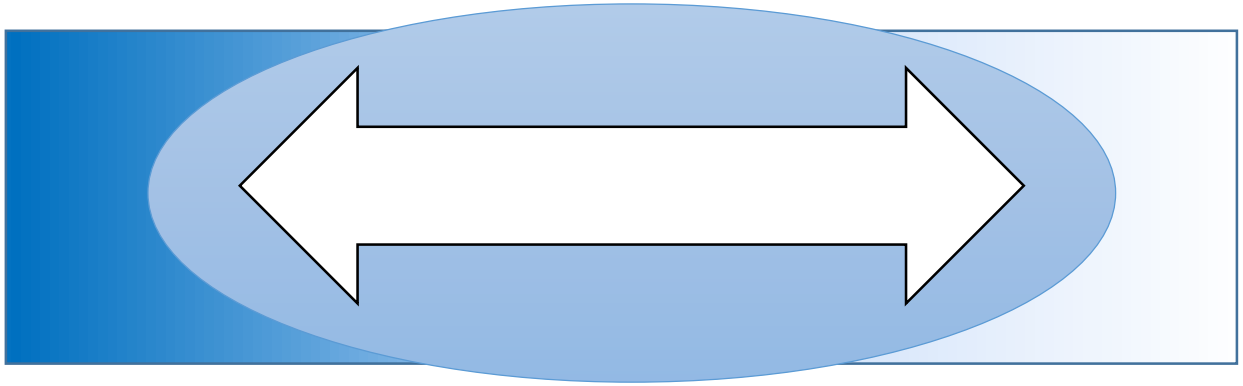
(2) 障がいについての理解①

「障がい」とは

人見知り

人懐っこい

全く話し掛けられない



初対面でも馴れ馴れしい

社会適応しやすい範囲

(2) 障がいについての理解②

「環境」を考える

障がい特性とは、「有無」ではなく「濃淡」
環境の在り方次第で、
障がい特性が淡くても、困難さは強くなる。

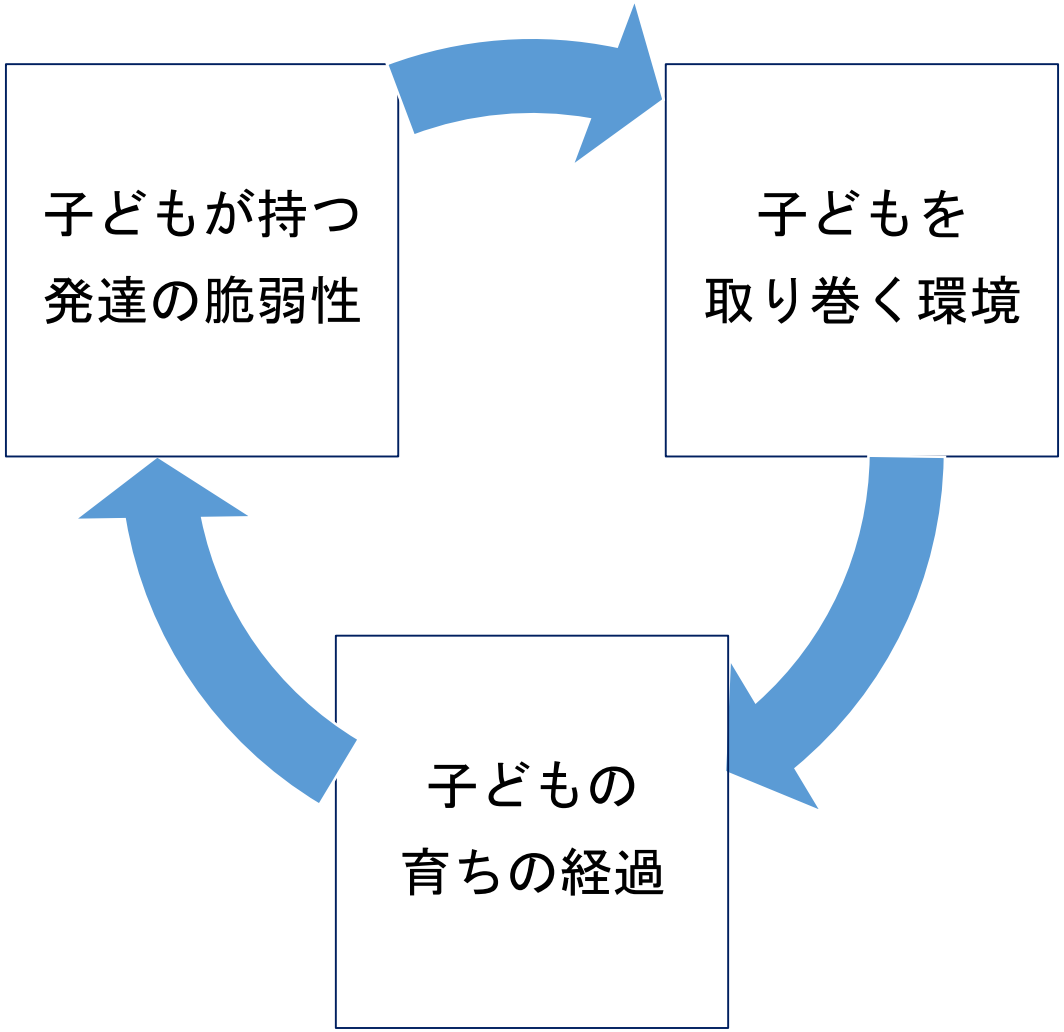
↓

人の生きづらさは、
その人と環境の間に生まれてくる。

北海道大学大学院教育学研究院　安達教授　講義資料から

(2) 障がいについての理解③

特性×環境＝困難さの程度



北海道大学大学院教育学研究院　安達教授　講義資料から

(3)　「医学モデル」と「社会モデル」①

障がいの「社会モデル」の考え方

○　日常生活又は社会生活において受ける制限は障がいにより起因するものだけでなく、社会における様々な障壁と相対することによって生ずるものという「社会モデル」の考え方を踏まえること。

○　障がいによる学習上又は生活上の困難について本人の立場に立って捉え、それに対する必要な支援の内容を一緒に考えること。

「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して（答申）」中央教育審議会（令和3年1月）

(3)　「医学モデル」と「社会モデル」②

ア　「医学モデル」で考えると・・・

「この子は、落ち着きがないなぁ。」

「病院に行って診察してもらってはどうだろうか。」

子どもの心身機能等だけを原因とする。

「医師による治療が解決策」

子どもの環境は？

(3)　「医学モデル」と「社会モデル」③

イ　「社会モデル」で考えると・・・

「落ち着きがないのは、**環境**のせいかもしれない。」

「興味のある活動を取り入れるなど、**活動**の工夫や改善が必要かもしれない。」

子どもが能動的に学習できる働き掛け

「興味のあるものを教材にしよう。」
「動きのある活動場面を作ろう。」
「活動の見通しが持てるように提示を工夫しよう。」　　など

(3)　「医学モデル」と「社会モデル」④

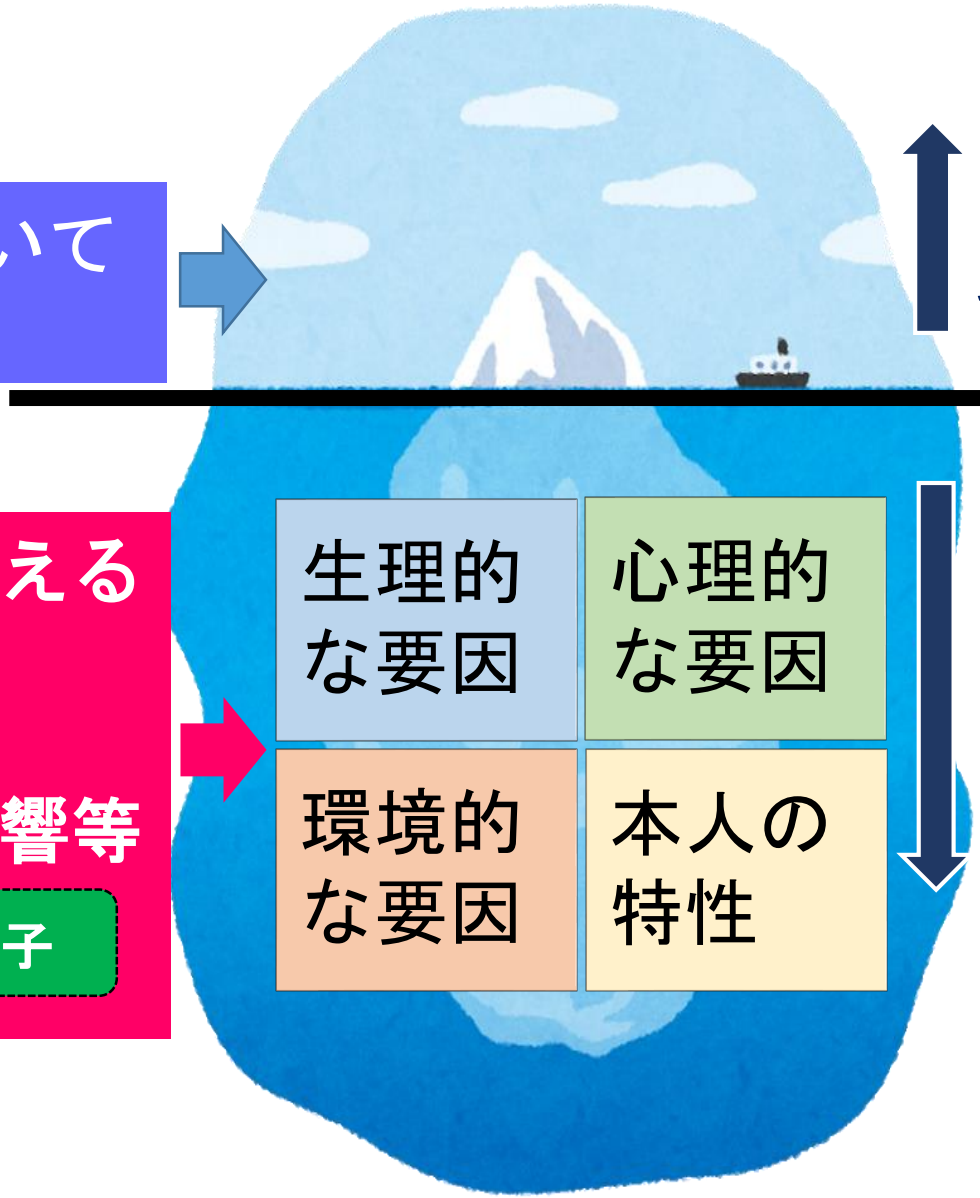
医学モデル 個人因子	気になる行動は、子どもの内側にある心身機能や身体構造によって起こる。
社会モデル **環境因子**	気になる行動は、子どもの内側にある心身機能や身体構造と子どもの外側にあるモノや制度・文化などの**環境との相互作用**によって起こる。

環境との相互作用が困難を生み、
気になる行動を大きくしているという考え方

子どもの立場になって
困難を捉える。

(4) 困難の背景にある要因を考える①

友達をいきなり叩いて泣かせた



背景にある要因を考える

- **本人の特性**
- **環境、状況**
- **経験や気付きの影響等**

個人因子　環境因子

(4) 困難の背景にある要因を考える②

困った行動を分析的に見る。

原因を書き出す

Ⅰなぜ、その行動が起こるのか

生理的な原因、心理的な原因、環境的な原因など、思いつく限りあげる。

対応を書き出す

Ⅱどのような対応が考えられるか

Ⅰであげた項目について、可能な対応策をなるべく多く考える。

多面的に（医学的、家庭での様子、学校等での様子、知能や認知検査、生育歴など）子どもを観察する。

「保育園・幼稚園のちょっと気になる子」中川信子（令和２年）

(4) 困難の背景にある要因を考える③

仮説Ⅰ

＜原因～課題＞

▲語彙が不足している。

▲適切に気持ちを伝えることができない。

▲難しい話は、すぐに理解できない。

仮説Ⅱ

＜原因～課題＞

▲普段は、言葉遣いに問題はない。

▲切れやすい。
（一気に興奮することがある。）

▲感情が高まると自分で行動を制御できない。

適切な伝え方

＜指導内容＞

◇適切な言葉遣い

◇適切な伝え方

◇シミュレーション

感情のコントロール

＜指導内容＞

◇自分の感情のモニター

◇感情が高揚した際の対処法（その場を離れる、等）

２　氷山モデルで考える適切な指導や支援

【演習】氷山モデルを用いた行動の分析と支援の検討

演習の流れ
氷山モデルで考える適切な指導や支援

Ⅰ　検討の対象とする子どもの事例を決定する。（３分）

Ⅱ　背景要因を検討する。（10分）

Ⅲ　背景要因を踏まえた支援内容や方法を検討する。（10分）

【演習】氷山モデルを用いた行動の分析と支援の検討

Ⅰ　検討の対象とする子どもの事例を決定する。

【事例】

気になる行動や様子について①

順番を守ることや、友達と一緒に取り組むことが苦手で、遊ぶときによくトラブルになる子ども

- 順番やルールを守ることが苦手であり、そのことを指摘されるとかんしゃくを起こす。
- 自分のやりたいことを通そうとする。また、嫌なことがあるとやろうとしない。
- 友達とトラブルになると、大きな声を出したり、相手を叩いたりする。

背景要因	考えられる指導や支援の内容・方法

気になる行動や様子について②

学習に対する意欲が低く、授業中に立ち歩いたり、違うことをしたりする子ども

- 教師の指示を理解することが難しく、行動が遅れたり、課題の提出ができなかったりする。
- 授業の後半になると集中が続かなくなり、立ち歩いたり、友達に話しかけたりする。
- 既習内容の定着が難しいため、全般的に学習に対する意欲が低い。

背景要因	考えられる指導や支援の内容・方法

気になる行動や様子について③

場に適した言動を取ることが苦手で、思っていることを直接口に出してしまい、よくトラブルになる子ども

- 授業中に突然大きな声で、友達に分からないことを質問する。
- 感情のコントロールが難しく、自分の思い通りの結果にならないとかんしゃくを起こしてしまう面がある。
- 相手の心情を考えずに話すことが多く、度々友達とトラブルになり、集団に入れないことが多い。

背景要因	考えられる指導や支援の内容・方法

Ⅱ　背景要因を検討する（個人思考10分）

気になる行動や様子について	
授業への集中が続かず、授業中に立ち歩いたり、違うことをしたりする子ども	
背景要因	

A　気になる行動や様子について、その背景や要因を考え、記入します。（10分）

- 子どもは、何がしたいのか？
- その行動や様子は、なぜ生じているのか？
- 子どもに、どのような行動をとってほしいか？
- その行動が難しい時に、子どもにどのように対応できるようになってほしいか？
- これらの行動や対応において、どのようなつまずきや困難さがあるのか？

Ⅲ　支援内容や方法を検討する（個人思考10分）

気になる行動や様子について	
授業への集中が続かず、授業中に立ち歩いたり、違うことをしたりする子ども	
背景要因	考えられる指導や支援の内容・方法

B　左の欄に書いた「背景要因を検討する手掛かり」を参考に、支援内容や方法を記入します。（10分）

【協議】　（～11:35）

①　自己紹介　≪２分≫

◆自己紹介（30秒程度）
①所属　②氏名　③連休で楽しみにしていること
※司会はグループ名簿の一番上に名前がある方にお願いします。

②　事例の決定・演習　≪23分≫

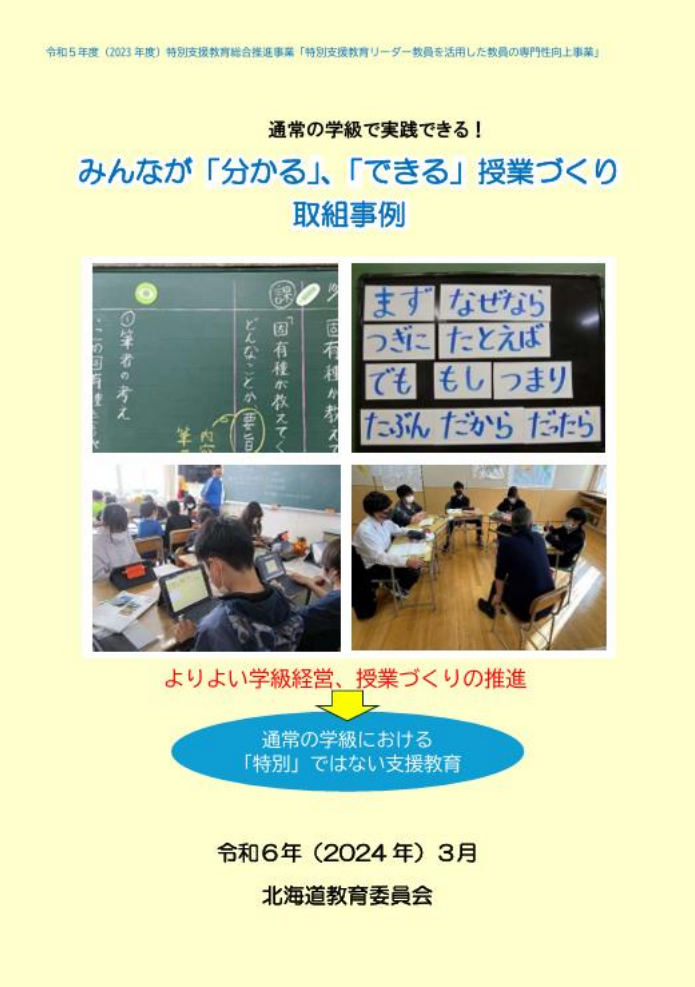
◆演習シートに、背景要因及び考えられる指導や支援の内容・方法について記載

③　協議　≪30分≫

◆演習シートに記載した内容の交流
◆行動の背景にある要因、本人の思いとして、他にどのようなことが考えられるか？
◆支援内容や方法として、他にどのようなことが考えられるか？
（これまでの経験などから）

３　特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒への指導事例

通常の学級で実践できる！
みんなが「分かる」、「できる」授業づくり取組事例



令和５年度（2023年度）特別支援教育総合推進事業「特別支援教育リーダー教員を活用した教員の専門性向上事業」
北海道教育委員会

（1） 障がい特性に応じた教育の工夫①

取組事例⑦

自分の気持ちを言葉で表現することが難しい

場面・教科	各教科
困難の背景として考えられること	
・指示が理解できず、言葉が出てこない。 ・自分の感情を言葉で相手に伝える経験が乏しい。	

「通常の学級で実践できる！みんなが「分かる」、「できる」授業づくり取組事例」北海道教育委員会（令和６年（2024年）３月）

(1) 障がい特性に応じた教育の工夫①

授業における指導方法の工夫のポイント	⑥ 焦点化	⑧スモールステップ化
	⑩ 感覚の活用	⑪ 共有化

○　指示や説明は分かりやすく、簡潔にする

複数の指示でパニックにならぬよう、端的で分かりやすい指示や説明の工夫（焦点化）

○　必要に応じて具体例やヒントを提示する

自分に近い意見を発見することができるよう、複数の具体例やヒントを示す工夫（スモールステップ化）

「通常の学級で実践できる！みんなが「分かる」、「できる」授業づくり取組事例」
北海道教育委員会（令和６年（2024年）３月）

(1) 障がい特性に応じた教育の工夫②

場面や気持ちの切り替えが難しい幼児の場合

今日は、３歳児の身体測定。そのことは、昨日幼児たちに伝えました。今朝、登園時にも「今日は身体測定があるからね」と個別に声を掛けました。自由遊びも終わり「さあ、オモチャを片付けましょう。身体測定に行くよ。」と声を掛けた時のことです。

その子は、キッと教師をにらんで、ブロックをぎゅっと握りしめ、オモチャを片付けません。他の幼児はどんどん整列し、身体測定に行く準備ができました。その子は、ついに大泣きをしてしまいました。

原　因

ア「身体測定の日程」を伝えていたと思っていたが、伝わっていなかったのかも
⇒言語理解力が乏しい

イ「身体測定」が自由遊びの後だとは思っていなかったのかも
⇒自己コントロールが未熟

対応策

ア　丁寧な説明（いつ/どこで/誰が/何を/どうする）
イ　目で見て分かる工夫
ウ スケジュールを予告する方法の工夫（見通しをもつことができる/一日の流れが分かる）

「保育園・幼稚園のちょっと気になる子」中川信子（令和２年）

4　まとめ

○　個々の子どもの困難さの行動の背景に目を向け、適切な指導と必要な支援を行うこと。

○　一人の教師で抱え込まずに、複数の目で様々な視点から子どもを見て、指導と支援を検討すること。